

(2) 「交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト」の活用(例)

「交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト」の活用のポイント

Step 1 : 児童・生徒が抱える多様な集団の中での困難さを把握します。

Step 2 : さらに、多様な集団において、児童・生徒が主体的に活動するためにどのような力が必要かを把握します。

※ 個別指導計画(連携型個別指導計画)を活用することにより、学級担任と通常の学級の担任及び教科指導とが、一貫した指導を行うことが重要です。

連携型個別指導計画

小学校	年 氏名
在籍担任	通級指導担当
平成 年 月 日作成	記載者

◎指導目標(長期目標)

在籍学級での目標

- (1)
- (2)
- (3)

自閉症・情緒障害特別支援学級での目標

- (1)
- (2)
- (3)

◎短期目標と手だて、及び評価

●在籍学級(期間:平成 年 月~平成 年 月)

評価(評価日)

短期目標 (1) (2)	
手だて (1) (2)	

(3) 交流及び共同学習実施の留意点

○事前に、通常の学級の児童・生徒、保護者への理解促進を図ります。

○新たな場面で混乱することが予想される児童・生徒の場合には、児童・生徒の実態に応じてスモールステップで交流及び共同学習を行い、達成感が得られるようにすることが重要です。

7

年間授業時数の決定（例）

1 自閉症・情緒障害特別支援学級の年間時数

自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程編成の基本は、小学校及び中学校の教育課程に準じることから、自立活動の指導については、時間を特設して指導します。自立活動の時間に充てる年間授業時数は、児童・生徒の実態に応じて各学校で適切に定めます。

また、他の教科等の年間授業時数との配分に関して、十分に検討するとともに、年度末等には、年間授業時数配分が適切であったかについて検証することが大切です。

2 自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割の編成

(1) 自立活動の授業時数の設定

在籍する児童・生徒の実態を把握し、実態に即して自立活動の授業時数を設定します。自立活動の授業時数の設定の際には、以下について配慮します。

ア 自立活動の授業時数は最小限に設定すること

各教科・領域の授業時数を十分に確保するために、自立活動の授業時数を必要最小限にします。基本的な考え方としては、各教科・領域において障害特性を踏まえて指導・支援を行っても児童・生徒の困難さに十分に対応できない場合に、困難さを改善・克服するために要する自立活動の時間を設定します。このため、自立活動の指導は、より効果的なものとなるよう努める必要があります。

イ 長期的な指導計画等に基づき設定すること

自立活動の授業時数の設定は、児童・生徒一人一人の障害特性を的確に捉えた上で、児童・生徒の卒業後の進学及び将来の自立と社会参加に向けた長期的な視点をもって、学年毎に適切な授業時数を設定する必要があります。

したがって、同じ学校の同一学年であっても、年度によって児童・生徒の実態が異なるために、授業時数が変動することがあり得ます。しかし、毎年度、授業時数が変わることは、学校（学級）経営という観点から望ましいことではないことに留意する必要があります。

一方、児童・生徒にとって必要となる自立活動の授業時数は、指導の成果により、学年が進むに従って、減少すると考えられます。

例えば、小学校の低学年では、対人関係やコミュニケーションの指導に十分な時間をかける必要があることが考えられるため高学年に比べ授業時数を多く設定します。

【小学校の自立活動の授業時数（例）】

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
時間数	105	105	70	70	35	35

中学校では、新たに特別支援学級に在籍する生徒がいることや、新たな学習課題に取り組む必要がでてくることから、第1学年などでは、授業時数を多く設定する傾向があります。しかし、学年が進むにつれ、生徒の長所を伸ばす指導に、自立活動の指導内容も絞り込まれていくことから、授業時数の設定が少なくなる傾向があります。

【中学校の自立活動の授業時数（例）】

学年	第1学年	第2学年	第3学年
時間数	70	70	35

（2） 各教科等の授業時数の設定に要する配慮事項

基本的には、各教科・領域の授業時数から、設定した自立活動の分の授業時数を減じることになります。また、学習指導要領に示された各教科等の内容を適切に実施し、各教科等の目標を達成することが大切です。

各教科・領域の授業時数を設定する際には、以下について配慮します。

ア 指導内容の重点を明確にし、授業時数を設定すること

児童・生徒の学習の習得状況と児童・生徒個々の実態把握に基づき、児童・生徒一人一人の指導内容の重点を明らかにします。各教科・領域から授業時数を減じる際には、重点を置くべきとした指導内容が減じられないようにします。

イ 特定の教科や領域に偏って減じないこと

授業時数を減じる教科・領域が、特定の教科・領域に偏らないように、授業時間を弾力的に設定し、時間割を変更することで、各教科・領域の授業時数を適切に設定することも考えられます。

ウ 通常の時間割に加えて自立活動の時間を設定すること

児童・生徒の実態から各教科・領域の授業時数を減じることが望ましくない場合、通常の学級の時間割の外に自立活動の時間を設定することも考えられます。これにより、各教科・領域の授業時数を減じない教育課程を編成することができます。

(3) 交流及び共同学習の時間数の決定

前述のように、児童・生徒の実態により、通常の学級で学んだ方が効果的な教科や単元については、通常の学級における交流及び共同学習の時間を計画的に設定します。

児童・生徒が特別支援学級から通常の学級に転籍することや、高等学校及び大学等への進学に向け、社会性やコミュニケーション能力を身に付けるために、有効であれば、通常の学級における交流及び共同学習の時間を設定していきます。

交流及び共同学習で児童・生徒が、通常の学級の授業に参加する場合、通常の学級の授業内容を踏まえ、より効果が期待できる交流及び共同学習となるよう、通常の学級の担任と連携して計画する必要があります。

また、交流及び共同学習を無理なく実施するためには、自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割を、できるだけ交流及び共同学習を行う通常の学級の時間割に近付けておくことが有効です。

3 自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（小学校第2学年）

	月	火	水	木	金
1	算数	算数	算数	算数	算数
2	国語	国語	国語	国語	国語
3	音楽	音楽	体育	体育	体育
4	自立活動	特別活動	自立活動	生活	生活
5	国語	国語	国語	道徳	国語
6		図画工作	音楽科と図画工作の合計、年間140単位時間のところを、合計、年間105単位時間とします。生活科は、年間105単位時間を70単位時間としま		

自閉症の特性に配慮し、同じ教科はできるだけ同じ時間帯に設定するなど、児童が見通しをもって授業に取り組めるように、工夫をすることも考えられます。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（小学校第6学年）

	月	火	水	木	金
1	自立活動	算数	算数	算数	算数
2	国語	国語	国語	国語	国語
3	算数	理科	理科	理科	外国語活動
4	社会	社会	自立活動	社会	総合的な学習の時間
5	音楽	図画工作	家庭	特別活動	道徳
6		体育		体育	体育

月曜日の1時限目に自立活動を設けることで、1週間のリズムをつくることも考えられます。

実技技科目の音楽、図画工作、体育、家庭の合計、年間245単位時間を210単位時間とします。
総合的な学習の時間は、年間70単位時間を35単位時間とします。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（小学校第6学年）

	月	火	水	木	金
1	算数	算数	算数	算数	算数
2	国語	国語	国語	国語	国語
3	音楽	家庭	特別活動	体育	外国語活動
4	理科	家庭	理科	理科	総合的な学習の時間
5	社会	図画工作	社会	社会	総合的な学習の時間
6	自立活動	体育		道徳	体育

各教科・領域については減じず、通常の週時程に加えて、自立活動を行う時間割の例です。指導の成果から、自立活動の設定時間は1単位時間としています。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（中学校 1 学年）

	月	火	水	木	金
1	特別活動	国語	国語	国語	外国語
2	数学	数学	技術・家庭	数学	数学
3	社会	社会	外国語	社会	社会
4	理科	理科	自立活動	理科	理科
5	外国語	保健体育	総合的な学習の時間	保健体育	自立活動
6	美術	道徳		音楽	総合的な学習の時間

各教科の授業で発展的な内容について、生徒の実態に応じて精選したり、実技科目の練習（例：基礎的な奏法、情報通信ネットワークの基本的な利用、等）を家庭と連携を図り、家庭で取り組んだりすることで、自立活動の時間を確保することも考えられます。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（中学校 1 学年）

	月	火	水	木	金
1	特別活動	理科	外国語	数学	数学
2	数学	社会	技術・家庭	外国語	外国語
3	社会	数学	技術・家庭	国語	社会
4	外国語	美術	自立活動	保健体育	理科
5	国語	国語	国語	道徳	保健体育
6	理科	保健体育		音楽	総合的な学習の時間

交流及び共同学習を円滑に実施するために、通常の学級の時間割と統一性を図ることも考えられます。

通常の学級が行っている学校行事の事前学習・事後学習の時間等を自立活動に充てるなどして、年間でできるかぎりの授業時間数を確保することも考えられます。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（中学校2学年）

	月	火	水	木	金
1	特別活動	理科	外国語	理科	数学
2	数学	社会	技術・家庭	外国語	外国語
3	社会	数学	技術・家庭	国語	社会
4	外国語	美術	総合的な 学習の時間	保健体育	理科
5	国語	国語	国語	道徳	保健体育
6	理科	保健体育	自立活動	音楽	総合的な 学習の時間

交流及び共同学習で通常の学級で円滑に交流及び共同学習を行うために、通常の学級の時間割と統一性を図った上で、通常の学級の時間割に加えて、自立活動を行うことも考えられます。

自閉症・情緒障害特別支援学級の時間割例（中学校3学年）

	月	火	水	木	金
1	特別活動	国語	国語	国語	外国語
2	数学	数学	技術・家庭	数学	数学
3	社会	社会	外国語	社会	社会
4	理科	理科	自立活動	理科	理科
5	外国語	保健体育	総合的な 学習の時間	保健体育	保健体育
6	美術	道徳		音楽	総合的な 学習の時間

指導の成果から、自立活動の設定時間は1時間とすることも考えられます。高等学校への進学を視野に入れて、人間関係やコミュニケーションに焦点を当てた自立活動を実施することも考えられます。

4 自立活動の年間指導計画

(1) 自立活動とは

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成 21 年 3 月）では、自立活動の目標は「個々の児童・生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」とされています。

自立活動の内容には、

- ① 健康の保持
- ② 心理的な安定
- ③ 人間関係の形成
- ④ 環境の把握
- ⑤ 身体の動き
- ⑥ コミュニケーション

の 6 区分が示されています。

(2) 自立活動の年間指導計画の配慮事項

自閉症の児童・生徒の障害の特徴が、ア 他人との社会的関係の形成の困難さ、イ 言葉の発達の遅れ、ウ 興味や関心が狭く特定のものにこだわること、であることを考慮すると、自立活動の 6 区分の内容のうち、特に③人間関係の形成、⑥コミュニケーションを中心に上げていくことが考えられます。また、情動のコントロールが難しいことや、周りの状況や刺激を上手に受け止めて判断することの難しさに対応するためには、②心理的な安定と④環境の把握を主たる指導内容として取り上げることが考えられます。さらに、家庭などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では、会話が難しい選択性かん黙の児童・生徒の場合には、②心理的な安定と⑥コミュニケーションを中心に上げていくことが考えられます。

(3) 自立活動の年間の指導内容の決定

自立活動の指導は、児童・生徒の一人一人の教育的ニーズに基づいて個に応じて実施するものです。「社会性・行動のチェックリスト」や「交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト」、学級における行動観察等を基に、障害の状況や生活・学習環境など個々の児童・生徒についての情報を収集し、収集した情報を学習上又は生活上の困難の視点から整理して、個々の児童・生徒の指導目標を決定します。

個々の児童・生徒の指導目標から個別指導計画を作成し「自立活動の指導内容の設定シート」を活用して指導内容の設定を行います。

学級の全員の指導内容を設定した上で、学級の自立活動の年間授業時数に合わせて、年間指導計画を立てます。小集団で学習する課題については、児童・生徒の一人一人の実態、障害特性によりグループを編成して授業を行うことも考えられます。

また、自立活動の指導内容や実施時期、期間は、教科等の指導内容や学校行事等と関連付け、年間を見通して設定することが効果的です。

自立活動の指導内容の設定シート（案）

「自立活動の指導内容の設定シート」を活用して指導内容の設定を行います。

実態把握	障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集 収集した情報を自立活動の区分に即して整理
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、周囲と合わせて行動するのが苦手 【心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握】 ・自分の考えを整理するのに時間がかかる。考えをまとめたりすることが苦手 【コミュニケーション】 ・相手の意図を受け止めたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりすることが苦手 【コミュニケーション】 ・学習中、長時間集中することができない。 【心理的な安定、環境の把握】 ・使うものやものの置き方などのこだわりがある。 【心理的な安定】 ・板書を書き写すのが苦手 【身体の動き】

児童・生徒の個々の実態を社会性・行動のチェックリスト、学習態勢チェックリストや行動観察等から把握します。

幾つかの指導目標の中で優先する目標として

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動の意義を理解し、集団の雰囲気に合わせてたり、積極的に参加したりする。 ・他者の意図や感情を捉え、自分が相手に伝えたい考えをまとめて整理し、相手に分かり易く簡潔に伝えることができる。
------	--

児童・生徒の個々の実態を基に指導目標を立てます。

指導目標を達成するために必要な項目の設定

選定された項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応	(3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の調整	(2) 感覚や認知の特性への対応 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握		(4) コミュニケーション手段の選択と活用

指導目標を達成するために必要な項目を設定します。

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<p>ロールプレイ等体験的な活動を通して自分の得意なところ不得意なところを理解させる。</p> <p>得られた情報から、周囲の状況や他者の気持ちを把握し確かな判断や行動ができるように指導する。</p>	<p>自分が感じたことをマッピングを用いて書きだし、整理して表現するなど、自分の考えをまとめ相手に伝える方法を身に付ける。</p> <p>毎回、学んだことを書き出し可視化して、具体的な事象と照らし合わせて振り返りを行う。</p>	<p>感情曲線や、絵カードやシンボルマーク等の視覚教材を活用して、具体的に分かりやすい指導を行う。</p> <p>体験的な活動と言葉を視覚的に関連付けながら具体的に分かりやすく指導する。</p>
----------	--	--	---

設定された項目を関連付けて、個々の実態に応じて具体的な指導内容を設定します。

設定した指導内容を学校生活支援シート、個別指導計画、年間指導計画及び学習指導案に反映させていきます。

特設する自立活動の年間指導計画では、年間の授業時数及び授業内容を設定し意図的・計画的に指導を行います。

平成28年度 知的障害の伴わない自閉症の児童・生徒の自立活動年間指導計画(小学校)

月	対象児童	題材・単元名	自立活動の区分	項目	具体的内容	指導時数
4月	基礎グループ	休みの日スピーチ	心理的な安定 コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える。興味をもって聞く。	5
	社会応用グループ	週の予定を知ろう・休みの日スピーチ	心理的な安定 コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	週の予定を知ること、見通しをもち学校生活を送る。自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える、相手の気持ちを聞き取る。	
	基礎グループ	自己紹介をしよう ぼく・わたしのベスト3	人間関係の形成	コミュニケーション	自己紹介をすることで、お互いを認め合う気持ちを育む。	
5月	基礎グループ	週の予定を知ろう・休みの日スピーチ	心理的な安定 コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	週の予定を知ること、見通しをもち、安心して生活を送る。自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える、興味をもって聞く。	7
	社会応用グループ	運動会・カ・いっばい頑張ろう	心理的な安定 コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 集団への参加の基礎に関する事	運動会の練習での集団参加、ルールの理解、通常学級の児童との関わり。	
	基礎グループ	こんなときどうする？	コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	SSITすごろくを使って学校生活の中で必要なソーシャルスキルについて考える。	
6月	基礎グループ	よく見よう・よく聞こう	環境の把握	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	よく見たり、聞いたりすることが学習に役立ちたいことを学ぶ。	7
	社会応用グループ	週の予定を知ろう・休みの日スピーチ	心理的な安定 コミュニケーション	状況の理解と変化への対応 言語の受容と表出	週の予定を知ること、見通しをもち、安心して生活を送る。自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える、興味をもって聞く。	
	基礎グループ	イライラした時どうする？	心理的な安定 コミュニケーション	情緒の安定に関する事 コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	イライラした時の対処法を学び、実践する。	
7月	社会応用グループ	仲間に入れてほしいときや伝えたいことを上手に伝えよう	コミュニケーション	状況に応じたコミュニケーションに関する事	友達と一緒に遊びたい時のお願いの仕方や、誘い方について学ぶ。	4
	基礎グループ	フワフワことばとチクタクことば	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	気持ちのよい言葉と人を傷つける言葉を知り、よい言葉を使おうとする心情を育む。	
	社会応用グループ	自分のやりたいたいことを上手に伝えよう	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	自分のやりたいたいことの伝え方や、受け入れ方、相談の仕方、言葉遣いについて学ぶ。	
9月	基礎グループ	1学期に頑張ったこと	人間関係の形成	自己の理解と行動の調整に関する事	教師が個々の児童の頑張ったことを評価することを通して、自尊心感情及び信頼関係の向上を図る。	4
	社会応用グループ	気持ちのよい挨拶をしよう	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	集団生活の中における挨拶の大切さについて学び、気持ちのよい挨拶をしようとする態度を育む。	
	基礎グループ	友達に助けを求めたいときや伝えたいことを上手に伝えよう	コミュニケーション	集団への参加の基礎に関する事	公共施設や交通機関を利用するときのルールやマナーについて学ぶ。	
10月	基礎グループ	いろいろな体を動かそう	コミュニケーション	状況に応じたコミュニケーションに関する事	自分のやりたいたいことを伝えたり、友達に行ってもらったりすることを通して、自尊心感情を高める。	8
	社会応用グループ	ルールを守ってゲームをしよう	人間関係の形成	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	手足を協調して動かす力を伸ばす。筋力をつけ、姿勢保持力を付ける。	
	基礎グループ	けんかや仲直りをしたいときや伝えたいことを上手に伝えよう	人間関係の形成	集団への参加の基礎に関する事	教師が個々の児童の頑張ったことを評価することを通して、自尊心感情及び信頼関係の向上を図る。	
11月	基礎グループ	けんかや仲直りをしたいときや伝えたいことを上手に伝えよう	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	行動や表情に表れている相手の真意を察する力を育む。	8
	社会応用グループ	ルールを守ってゲームをしよう	人間関係の形成	状況に応じたコミュニケーションに関する事	トラブルがあった時の解決の仕方や謝り方について学ぶ。	
	基礎グループ	ルールを守ってゲームをしよう	人間関係の形成	集団への参加の基礎に関する事	負けても怒らない、勝っても威張らないことで楽しく遊べることを学ぶ。	
12月	基礎グループ	2人で協力しよう	身体の動き・環境の把握	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	2人で協力して作業をするときに気を付けたらよいことを考える。	7
	社会応用グループ	得意なことを考えよう	心理的な安定	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自分のいいところを探したり、友達に行ってもらったりすることを通して、自尊心感情を高める。	
	基礎グループ	怒りたくなかったときはどうする？	心理的な安定	情緒の安定に関する事	怒りを感じた時に、暴力等を振るわずに対処する方法について学び、相手のことを考えた言葉遣いについて学ぶ。	
1月	基礎グループ	失敗してしまったりできなかったらどうする？	コミュニケーション	状況に応じたコミュニケーションに関する事	間違えてしまったりできなかった時にやり直しや、謝罪などの対処する方法について学ぶ。	7
	社会応用グループ	2学期に頑張ったこと	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	教師が個々の児童の頑張ったことを評価することを通して、自尊心感情及び信頼関係の向上を図る。	
	基礎グループ	気持ちのよい挨拶をしよう	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	集団生活の中における挨拶の大切さについて学び、気持ちのよい挨拶をしようとする態度を育む。	
2月	基礎グループ	説明をよく聞いてゲームを楽しもう	人間関係の形成	集団への参加の基礎に関する事	チームで協力してゲームを行うことで、集団で活動する楽しさを味わう。	7
	社会応用グループ	説明をよく聞いてゲームを楽しもう	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	チームで協力してゲームを行うことで、集団で活動する楽しさを味わう。	
	基礎グループ	上手に断るには？	コミュニケーション	状況に応じたコミュニケーションに関する事	依頼を断る時の対処方法を学ぶ。	
3月	基礎グループ	困っている友達を助けたいときはなんて言う？	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	困っている友達を手伝いたい時の申し出の仕方を学ぶ。	6
	社会応用グループ	説明をよく聞いてゲームを楽しもう	人間関係の形成	集団への参加の基礎に関する事	全員で力を合わせて一つの作品を作り、協力する大切さと達成感を味わう。	
	基礎グループ	もの借り方、返し方	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	人に物を借りる時返す時の言葉掛けや、マナーについて学ぶ。	
3月	基礎グループ	いいところさがし	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	自分のいいところを探したり、友達に行ってもらったりすることを通して、自尊心感情を高める。	70
	社会応用グループ	6年生、ありがとう	人間関係の形成	状況に応じたコミュニケーションに関する事	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、進級する喜びを味わう。	
	基礎グループ	3学期・1年間で頑張ったこと	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	教師が個々の児童の頑張ったことを評価することを通して、自尊心感情及び信頼関係の向上を図る。	

自立活動の指導は、児童・生徒の一人一人の教育的ニーズに基づいて個に応じた実施するものです。また、集団の中で学習する課題については、実態や障害特性によりグループを編成して授業を行います。

指導目標を達成するために必要な自立活動の項目を6区分から記載します。

指導の成果により高学年で、授業時数を減していくことも考えられます。

平成28年度 知的障害の伴わない自閉症の児童・生徒の自立活動年間指導計画(中学校)

月	題材・単元名	自立活動の区分	項目	具体的内容	指導時数
4月	エントリースーツ	心理的安定	情緒の安定に関する事	自分のことを知ってもらうためにエントリースーツを作成する。新しい環境への適応を円滑に進めるための配慮事項を確認する。	3
	自己紹介ビンゴ	人間関係の形成	他者との関わり方の基礎に関する事	互いに自己紹介し、名前をビンゴカードに書く活動を通して、適切な話形・距離感でコミュニケーションする力を育てる。	
	集団行動の達人	人間関係の形成	集団参加に関する事	校外に出て集団行動するときの方法について学び、集団生活への適応力を高める。	
5月	自己紹介(発表)	人間関係の形成	他者の意図や感情の理解に関する事	友達を他者に紹介する。友達、聞き手に配慮した紹介の仕方を学ぶ。	4
	カードゲーム・スピード7	人間関係の形成	集団参加に関する事	グループで協力して早クード並べをする活動を通して、ルールを守り協力する力を育てる。	
	リレーゲームをしよう	コミュニケーション 人間関係の形成	コミュニケーションの基礎的能力に関する事 集団参加に関する事	リレー形式のゲームで勝つためにはどうすればよいかを話し合い、実践する活動を通して、集団で活動する楽しさを味わう。	
6月	自分のことについて考えよう	心理的安定	情緒の安定に関する事	自分の得意なことや苦手なことを知り、得意なことを伸ばそうとする気持ち育てる。	4
	相手の気持ち	人間関係の形成	他者との意図や感情の理解に関する事	同じ事象を見聞きしたり体験した時、人により感じ方が違うことに気付く。	
	私は誰でしょう	コミュニケーション 人間関係の形成	コミュニケーションの基礎的能力に関する事 集団への参加の基礎に関する事	ものや人物の特徴からそれを類推するゲームに取り組むことを通じて抽象化する力を伸ばし、集団に参加することの楽しさを味わい、集団適応力を付ける	
7月	生活環境を整えよう	環境の把握	感覚や認知の特性への対応に関する事	必要な文房具の準備、机の上や机の中、ロッカーの中を整理する力を育てる。	2
	言葉で伝えよう・絵の完成	コミュニケーション	言語の受容と表出に関する事	提示された絵の情報を言葉だけで他者に伝え、絵を完成させることにより言語コミュニケーション力の向上を図る。	
9月	集団行動の達人	人間関係の形成	集団参加に関する事	校外に出て集団行動するときの方法について学び、集団生活への適応力を高める。	4
	みんながゲームしよう。カードミーティング	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	カードに書かれた絵の情報をもとに話し合い活動をし、話し合い活動の基本スキルの習得をめざす。	
10月	身だしなみについて考えよう	人間関係の形成	他者との関わり方の基礎に関する事	身だしなみの社会的な意味を理解し、身だしなみを整えようとする気持ちを育てる。	3
	会議の達人	コミュニケーション	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	反対意見を述べる方法について学び、言語コミュニケーションの向上を図る。	
	自分の気持ちとその対処法	心理的安定	状況の変化への対応に関する事	怒りや悲しみを感じた時の対処法を知り、適切に行動する力を身に付ける。	
11月	学習環境の整え方	環境の把握	感覚や認知の特性への対応に関する事	学習の仕方を学び、学習意欲を高めることにより自尊感情の向上を図る。	4
	面接の達人	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	面接場面で自分の考えを述べる方法について学び、言語コミュニケーションの向上を図る。	
	みんながゲームしよう。何をしているところ？	コミュニケーション	言語の受容と表出に関する事	提示された状況を身体表現だけで他者に伝え、状況をあてることにより非言語コミュニケーション力の向上を図る。	
12月	自分の気持ちとその対処法	心理的安定	状況の理解と変化への対応に関する事	マイナス感情を客観的に見るにより、その感情をコントロールすることを学ぶ。	3
	訪問の達人	人間関係の形成	他者との関わり方の基礎に関する事	訪問先での礼儀について学び、コミュニケーション力の向上を図る。	
1月	みんながドミノに挑戦	コミュニケーション	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	グループでルールを守りドミノを作る活動を通して、話し合い活動のスキルを身に付け、協力する力を育てる。	3
	自分の気持ちとその対処法	心理的安定	情緒の安定に関する事	怒りや悲しみを感じた時の対処法を知り、適切に行動する力を身に付ける。	
	電話の達人	コミュニケーション	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	電話で目上の人に情報を伝える方法について学び、コミュニケーション力の向上を図る。	
2月	私の理解者	心理的安定	障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自分を理解し、励ましてくれる家族や友達、先生の存在に気付くことにより自尊感情の向上を図る。	3
	敬語の達人	コミュニケーション	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	敬語について学び、社会人と敬語で会話する体験を積むことによりコミュニケーション力の向上を図る。	
3月	自分の性格	心理的安定	情緒の安定に関する事	自分の得意なことや苦手なことを知り、得意なことを伸ばそうとする気持ちを育てる。	2
	感謝の気持ち	人間関係の形成	自己の理解と行動の調整に関する事	お世話になった方は何方かな。感謝の気持ちはどうやって伝えればよいか。	
					35

指導の成果により、自立活動の授業時数を学年ごとに段階ごとに減じています。

高等学校への進学を視野に入れて、題材や単元を設定します。

5 各教科の年間指導計画

(1) 各教科の年間指導計画の配慮事項

ア 指導内容の適切な精選

各教科の指導をする上では、児童・生徒の実態に応じた配慮が必要です。

また、自立活動の時間の特設に伴い年間指導時数が減じられている教科については、指導内容を適切に精選するとともに指導の工夫をしていくことが考えられます。

イ 複式学級による指導の工夫

自閉症・情緒障害特別支援学級においては、複数の学年で学級を編制することから、小規模校の複式学級における指導を参考にしながら、複式学級による指導の工夫することも考えられます。

複式学級による指導では、複数の学年の内容を複数年かけて実施することが考えられます。例えば、二つの学年で複数学級を編成する場合、二つの学年の指導内容について、指導内容をA年度・B年度と2年間に分けて、2年間で実施することが考えられます。また、複式学級による指導では、意図的に単元の始める時間を学年ごとに差を設けることで、直接指導で丁寧に説明が必要な導入の時間と間接指導で自主的に学習を進める時間を交互に組み合わせることができ、指導の充実を図ることが可能となります。

ウ 高等学校等の進学への対応

中学校においては、高等学校等の進学に向けて、通常の学級と共通の定期考査を実施することが考えられることから、通常の学級と同じ進度で年間指導計画を立てることが必要となります。

(2) 各教科の年間の指導内容の組織

ア 個々の実態に応じた指導内容を決定

児童・生徒の実態を「国語科学習評価シート」及び「算数科学習評価シート」、東京ベーシック・ドリル等により把握します。学習の空白や既習状況、学習の到達度を把握した上で、指導内容を組織します。

イ 教科担当との協力・連携による指導内容の組織

中学校における自閉症・情緒障害特別支援学級では、各教科担当が指導に当たることから、学級担任と教科担当が協力・連携して、個別指導計画（連携型・短期型を含む。）や学校生活支援シート等を作成・活用して、各教科の指導内容を組織します。

複式学級による国語科年間指導計画(B年度における第3・4学年の例)

月	単元名・学習内容					理由	単元名・学習内容					理由
	第3学年の内容	標準 時数	増減	決定 時数	実施 時数		第4学年の内容	標準 時数	増減	決定 時数	実施 時数	
四月	1	よく聞いて、自己紹介	1	-1	0	自立活動の「休みの日のスピーチ」で取り扱う	ばら言葉聞き取る	1	-1	0	自立活動でも行うため	
	2	どきん						1	0	1		
	3	きつきの商売						8	+2	10	語句の確認、習熟	
	4	国語辞典のつかい方						2	0	2	文字の指導で学習する	
	5	漢字の音と訓	2	-1	1	文字の指導で学習する	漢字辞典の使い方	2	0	2		
五月	6	春の楽しみ	2	-2	0	4年生の教材「春の風景」も同時に扱う。	春の風景	2	0	2	3年生の教材「春の楽しみ」も同時に扱う。	
	7	よい聞き手になろう	5	-5	0	自立活動の話合い活動等で取り扱う。	7	4	-2	2	よりよい話し合いをしよう 自立活動でも行うため	
	8	漢字の広場①	2	-1	1		5	5	1	1	大きな力を出す	
	9	言葉で遊ぼう・こまを楽しむ	9	+1	10		6	6	1	1	動いて、考えて、また動く	
	10	俳句を楽しもう	1	-1	0	4年生の教材「短歌・俳句に親しもう」も同時に扱う	7	7	1	-1	0	漢字の広場① 文字の指導で学習する
六月	11	気になる記号	14	-14	0	4年生の教材「新聞を作ろう」も同時に扱う。	9	9	15	+1	16	3年生の教材「気になる記号」も同時に扱う
	12	漢字の広場②	2	-1	1	文字の指導で学習する	10	10	2	-1	1	いろいろな意味を持つ言葉 学習内容を精選したため
	13	たのきゆう	1	-1	0	A年度に扱う	11	11	1	0	1	ふるやの森
	14	夏の楽しみ	2	-2	0	4年生の教材「夏の風景」も同時に扱う。	12	12	2	-2	0	一つの花 A年度に扱う
	15	もうすぐ雨に	6	+2	8	語句の確認、習熟 自立活動の「ありがとう」で取り扱う。	13	13	6	-6	0	つの花 A年度に扱う
七月	16	「ありがとう」をつたえよう	5	-5	0	自立活動の「ありがとう」で取り扱う。	14	14	2	0	2	3年生の教材「夏の楽しみ」も同時に扱う。 自立活動で学習するため
	17	漢字の広場③	2	-1	1	文字の指導で学習する	15	15	2	-1	1	A年度に実施する内容は網掛
	18	本を使って調べよう・里山は未来の風景	5	-5	0	学習内容を精選したため	16	16	2	-1	1	漢字の広場② 文字の指導で学習する
							17	17	5	-5	0	読むことについて考えよう A年度に扱う
	19	わたしと小鳥とすずと・山のてっぺん	2	-1	1	学習内容を精選したため。	18	18	2	-1	1	忘れもの
九月	20	ちいちゃんのかげおくり	10	-10	0	A年度に扱う	19	19	2	-1	1	ぼくは川
	21	へんとつくり	2	-1	1	文字の指導で学習する	20	20	2	-2	0	カンジーはかせの漢字しりとり 学習内容を精選したため
							21	21	14	+2	16	ごんぎつね 場面を細かく区切って、心情について丁寧に指導
	22	ローマ字	4	0	4		22	22	15	-15	0	だれもが関わり合えるように A年度に扱う
	23	伝えよう、楽しい学校生活	15	-12	3	宿泊学習の事後学習で同様の学習を行うため。	23	23	2	-1	1	漢字の広場③ 文字の指導で学習する
十月	24	漢字の広場④	2	-1	1	文字の指導で学習する	24	24	2	0	2	秋の風景 3年生の教材「秋の楽しみ」も同時に扱う。
	25	修飾語	2	0	2							
	26	秋の楽しみ	2	-2	0	4年生の教材「秋の風景」も同時に扱う						
	27	すがたをかえる大豆	6	+2	8	語句の確認、習熟	25	25	2	0	2	慣用句
	28	食べ物のひみつを教えます	8	+2	10	語句の確認、習熟	26	26	8	-8	0	「クラブ活動リーフレット」を作ろう 学習内容を精選したため
十一月	29	短歌を楽しもう	1	-1	0	4年「短歌・俳句に親しもう」も同時に扱う。	27	27	1	0	1	短歌・俳句に親しもう 3年「短歌を楽しもう」も同時に扱う
	30	漢字の意味	2	-1	1	文字の指導で学習する	28	28	8	0	8	ブラタナスの木 学習内容を精選したため
	31	三年とうげ	6	-6	0	A年度に扱う	29	29	8	-8	0	アップとルーズで伝える A年度に扱う
	32	たから島のぼうけん	8	0	8		30	30	2	-1	1	漢字の広場③ 文字の指導で学習する
	33	漢字の広場⑤	2	-1	1	文字の指導で学習する	31	31	4	0	4	文と文をつなぐ言葉
十二月	34	言葉を分類する	4	-2	2	学習内容を精選したため						
	35	冬の楽しみ	2	-2	0	4年生の教材「冬の風景」も同時に扱う。	32	32	2	0	2	のはらうた
	36	雪・ゆき・雪	4	-2	2	学習内容を精選したため	33	33	5	-5	0	野原に集まれ A年度に扱う
	37	ありの行列	7	+1	8	語句の確認、習熟	34	34	2	0	2	冬の風景
	38	しりょうから分かる小学生のこと	7	+1	8	語句の確認、習熟	35	35	8	-8	0	ウナギのなぞを追って A年度に扱う
一学期							36	36	2	-1	1	漢字の広場④ 文字の指導で学習する
	39	コンピュータのローマ字入力	2	-2	0	総合的な学習で行うため	37	37	6	-3	3	聞き取りメモの工夫 自立活の「よく見よう」「よく聞こう」で取り扱う。
	40	カンジーはかせの音訓かるた	2	-2	0	学習内容を精選したため	38	38	2	0	2	熟語の意味
	41	ことわざについて調べよう	14	-14	0	4年教材「わたしの研究レポート」も同時に扱う	39	39	14	+1	15	わたしの研究レポート 3年教材「ことわざについて調べよう」も同時に扱う
	42	漢字の広場⑥	2	-1	1	文字の指導で学習する	40	40	2	0	2	まちがえやすい漢字
二学期	43	モチモチの木	13	+2	15		41	41	7	-7	0	初雪のふる日 A年度に扱う
	44	わたしの三大ニュース	2	-2	0	A年度に扱う	42	42	2	-1	1	漢字の広場⑤ 文字の指導で学習する
							43	43	2	-2	0	十年後のわたしへ 総合的な学習で取り扱う。
年間を通じて		文字の指導(漢字の読み書き等)			5							
		書写指導(硬筆)			10							
		作文指導(行事の振り返り等)			10							
		図書室での学習(読み聞かせ・読書)			10							
	合計	202	-101	136	0			200	-91	109	0	

第3・4学年の指導内容をA年度・B年度に分けて、2年間で実施する。

自立活動で実施する内容は減じている

A年度に実施する内容は網掛

B年度に実施する第3学年の内容

B年度に実施する第4学年の内容

B年度に実施する複式学級の第3・4学年の授業時数136時間+109時間=245時間

年間の時数の合計 245 時間

複式学級の学習指導案（例）

- ◆ 年間指導計画における本時の位置付けを明確にします。
- ◆ 各学年のねらいを明確にします。
- ◆ 各学年の内容・活動を記載します。
- ◆ 自立活動との関連性を記載します。
- ◆ 障害特性に応じた指導の手だて・配慮事項を記載します。
- ◆ 直接指導と間接指導を明確に記載します。

(4) 本時の展開		第3学年		第4学年	
指導上の留意点	学習活動	学習活動	指導上の留意点	学習活動	指導上の留意点
◇T2の指導 ●評価規準 () 評価方法	主な発問「 」 ○予想される児童の反応	主な発問「 」 ○予想される児童の反応	◇T2の指導 ●評価規準 () 評価方法	主な発問「 」 ○予想される児童の反応	◇T2の指導 ●評価規準 () 評価方法
直接指導	1 前時の復習をする。 2dLと、1dLを10等分した目もり5つ分のかさを「2.6dL」(二点六デシリトル)と表す。 ◇プリントが終わった児童から	1 練習問題に取り組む。 1. 7×3 2. 3×4 など	間接指導	1 練習問題に取り組む。 1. 7×3 2. 3×4 など	◇つまずいている場合には、ピトカードを提示し、計算の仕方を確認させる。
	2 復習問題に取り組む。 丸を付け、次のプリントに取り組みませる。 2. 4dL 3. 5dL 1. 7dL など ・つまずいている児童には、はししたの目盛りの数が何目盛り目であるか確認させる。	2 課題をつかむ。 ①問題把握をする。 □Lのジュースを、3本のびんに同じように分けると1本分は何Lになるでしょうか。 「5. 4Lだと1本分は何Lになるかな。」 ○式は $5.4 \div 3$ になる。 ②めあてを知る。 5. $4 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。	導入	2 課題をつかむ。 ①問題把握をする。 □Lのジュースを、3本のびんに同じように分けると1本分は何Lになるでしょうか。 「5. 4Lだと1本分は何Lになるかな。」 ○式は $5.4 \div 3$ になる。 ②めあてを知る。 5. $4 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。	直接指導
直接指導	3 課題をつかむ。 ①めあてを知る。 1dLより少ない水のかさの表し方を考えよう。 4 1dLに満たないかさの表し方を考える。 「プリンカップの水のかさは、何dLになるかな。」 ○分からない。 ○1dLまでは水が入っていないから0になる。はししたの目盛りの数は6だから、0.6dLになる。 5 純小数の表し方を知る。 「1dLますの目もり5つ分のとき、0.6dL(わい点六デシリトル)と表す。 ・「わい点六デシリトル」と声に出して読ませる。	3 計算の仕方を考え、ノートに書く。 「5. $4 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。」	展開	3 計算の仕方を考え、ノートに書く。 「5. $4 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。」	・答えが何Lくらいになるか、予想させ、見通しをもたせる。 ・1つの方法だけでなく、複数の方法を考えるように促す。 ◇考えが思い浮かばない場合には、ピトカードを提示し、計算の仕方を考えさせる。 ●整数の場合と比べながら、小数の除法の計算の仕方を進んで考えようとしている。 【関】(観察・ノート)

複数学級において、別単元、別教材で行う場合

(学習指導案：本時の展開例)

授業の導入時には、直接指導の時間を多く必要とします。

単元の開始日に差を設けることで、導入時、十分に直接指導の時間を確保するとともに、直接指導と間接指導を効果的に配置することができます。

各教科等の年間指導計画（例：中学校）

- ◆ 高等学校への進学に向けて、年間指導計画・単元目標及び定期考査の内容は通常の学級との共通化を図っています。（国語・数学・理科・社会・英語は減じていません。）
- ◆ 定期考査を共通にしているため、各単元の進度を、通常の学級に合わせています。
- ◆ 担任以外にも、教科担当が教科の授業を実施する場合があるため、各教科の到達目標に加えて、生徒の障害特性に応じた配慮事項を記載しています。
- ◆ 心情の理解や、物事の相関関係、文章問題、資料の分類・整理、立体図形等の特徴や構成等、困難さが見られる学習内容について、時間を十分にとることが考えられます。

月	単元	教材	標準時数 (通常学級)	自閉症・情緒 障害特別支援 学級の時数	達成目標	自閉症・情緒障害特別支援学級 配慮事項
4	め言葉に出会った	野原はうたう	5	5	表現の特徴について、自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の特性を周知させ、互いに配慮することを認知させる。 ・自分の特性を捉えながら、学習に取り組む姿勢を意識させる。 ・準備する教材や用具について、視覚的支援などを入れ、早めに伝える。 ・書字に問題を抱えている生徒に対する配慮を行う。
		声を届ける／書き留める／本と出会う／調べる	9	9	本やインターネットなどから必要な情報を集めるための方法を身につける。	
		練習 情報を正確に聞き取る	1	1	情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモに取る。	
5	学びをひろく	にじの見える橋	5	7	登場人物の心情を表す表現に着目して、作品の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・心情の理解について、心情曲線や、表情イラスト等を活用して丁寧な指導を行う。 ・文章を段落ごとに分けて、段落ごとの内容を理解させ、段落間の関連性を理解させる。 ・主観的な意見が優先されて、論点がずれていくようなことのないように配慮する。 ・定期考査に向けて、学習の定着や個々の課題を確認し、個々の特性に応じた学習方法を指導する。
		言葉1 話し言葉と書き言葉	2	2	話し言葉と書き言葉の違いについて考え、それぞれの特徴を理解する。	
		季節のしおり 春	1	—	伝統的な言語文化に親しむ。	
		友達をみんなに紹介しよう 取材してスピーチで伝える	3	2	聞き手が知りたい情報を考えて、日常生活の中から交流を通して話題を決める。	
		ダイコンは大きな根？	3	3	身近なものについて説明された文章を読み、文章の中で使われている言葉の意味や内容を捉える。	
6	豊かな言葉	ちょっと立ち止まって [書く]段落のまとまりを意識して書こう	6	6	文章と図の関連や段落と段落の関係に注意して文章の構成を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な手掛かりとなる教材を活用して図と文章との関連性を理解できるようにする。 ・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうする」等の項目に沿って相手に伝える指導を行う。 ・窓は「ウ」「ハ」「ム」「心」等言葉による手掛かりを提示し指導を行う。
		わかりやすく説明しよう 観点を決めて書く	3	3	身近な生活の中から、伝える目的や相手を明確にして情報を集める。	
		練習 スピーチ名人になろう	1	1	自分の思いや考えをわかりやすく伝えるために、構成を整え、聞き手を意識して話す。	
		漢字1 漢字の組み立てと部首	2	2	漢字の組み立てと部首を理解する。	
		はじめての詩	3	3	文章を読んで、語句の意味を的確に捉え、筆者の文学の言葉に対する考え方に触れ、自分なりの考えをもつ。	
		詩四編				
言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして [書く]推薦文を書こう	2	2	観点を決めて多くの言葉を集め、その言葉を使って日常生活を題材とした推薦文を書く。			
7		文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	2	2	言葉の単位とその働きについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援と実施の体感的な活動を取り入れ文法の学習を行う。 ・偏った読書活動を主観的に明示する活動に陥らないように配慮した指導をする。 ・夏休みの課題への取り組み方について個々の特性に応じた学習方法を指導する。

通常学級と授業の総実施時間は同じですが、障害特性に応じ心情の理解等の学習には、時間を十分に確保することが考えられます。

指導に当たる教科担当と連携・協力が図れるように、指導に当たっての配慮事項等を記入します。

平成 27 年度 自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の成果・普及事業検討委員会

1 自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の成果・普及事業研究指定校

武蔵村山市立雷塚小学校
日野市立日野第二中学校校
日野市立日野第三中学校校

2 自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の成果・普及事業検討委員会委員

所属	職名	氏名	備考
横浜国立大学	教授	渡部 匡隆	専門委員
明星大学	教授	廣瀬 由美子	専門委員
国立教育政策研究所	教育課程調査官	笠井 健一	専門委員

武蔵村山市立雷塚小学校	校長	井内 潔	委員
日野市立日野第二中学校	校長	石川 晴一	委員
日野市立日野第三中学校	校長	中嶋 建一郎	委員
武蔵村山市立雷塚小学校	教諭	溝辺 正子	委員
日野市立日野第二中学校校	教諭	師岡 真一	委員
日野市立日野第三中学校校	主任教諭	上原 有紀	委員

武蔵村山市教育委員会	指導主事	西原 英治	委員
日野市教育委員会	統括指導主事	重山 直毅	委員
日野市教育委員会	指導主事	下里 鮎乃	委員

指導部特別支援教育指導課長	伏見 明	委員長
指導部主任指導主事（特別支援教育担当）	緒方 直彦	副委員長
指導部特別支援教育指導課統括指導主事	泉田 巧人	事務局
指導部特別支援教育指導課指導主事	古舘 秀樹	事務局

自閉症・情緒障害特別支援学級の
教育課程の在り方について

東京都教育委員会印刷物登録
27年度 第238号

発行日 平成28年3月25日
発行 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課
所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番地1号
電話番号 03(5320)6847



